

## 発刊によせて

令和4年度の教育要覧「戸田市の教育」の発刊にあたり、日ごろより本市教育行政の発展に御理解、御協力をいただいておりますことに、あらためて御礼申し上げます。

明治5年に我が国最初の全国規模の近代教育法令である「学制」が公布され、令和4年に150年を迎えました。これまでの日本型学校教育は、学習、生徒指導、地域社会との連携など、広範囲に関わる全人的な教育の提供が行われ、この点は、諸外国から高く評価されていますが、献身的な教師や関係者らに支えられたからこそその結果といえます。

令和の日本型学校教育においては、一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者の役割とともに、コミュニティ・スクールなどの地域社会と連携・協働した活動の一層の充実が求められています。一方で、働き方改革は喫緊の課題であり、学校の真のカリキュラム・マネジメント力が試されています。

しかし、時代の変化に応じた新たな学びの実践やダイナミックな業務改善などは、学校だけの力で行うのは容易なことではありません。そのために、教育委員会のマネジメントを「一律の管理」から「個別の支援」にシフトし、教育委員会は、「学校に伴走し、積極的な自走を支援し、逸走や暴走を軌道修正する」ところでなければならないと考えています。

このような中、戸田市教育委員会では、先行き不透明な時代にあって、子供たちが自分の人生を切り拓き、世界で活躍できる人財の育成、そして、戸田から世界にはばたくことになっても、自分の育った「ふるさと戸田」に恩返しができる「一流の地域人」の育成を目指しています。そのために、令和3年度からは「戸田市教育大綱」、「第4次戸田市教育振興計画」、「第5次戸田市生涯学習推進計画」を施行し、産官学と連携した教育改革をスタンダードとし、その深化・充実を図っております。

その中でも、Subject（教科教育）、EIPP（Evidence Informed Policy and Practice）、EdTech（Education×Technology）、PBL（Project-Based Learning）の頭文字をとったSEEPプロジェクトは教育改革の重点となっております。

また、ICTのマストアイテム化の次のフェーズとして、現在着手しているのが「教育政策シンクタンク」による教育データの利活用、デジタル・シチズンシップ教育の推進、そして、STEAM教育の基盤作りです。

特に、今年度は、「教育政策シンクタンク」の機能充実を目指し、多様な専門分野の有識者で構成されたアドバイザリーボードにおける知見を踏まえながら、部局を超えた教育データの分析を進めることで、授業・生徒指導・学校、学級経営の3つの分野を科学する取組を加速させています。

このほかに「戸田型オルタナティブ・プラン」を推進し、「誰一人取り残されない教育」の実現のため、3つの取組を実施します。1つ目は、「不登校を『支援』する」ため、戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」などの設置により、学びの選択肢を多様化する取り組み。2つ目は、「不登校を『科学』する」ための不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」を設置し、データを活用して不登校の予兆を捉えたり、子どものSOSを早期に気づけるようにしたりする取り組み。3つ目は「不登校を『理解』する」ための、社会に開かれたネットワーク構築事業。周りにいる大人の不登校についての正しい理解を広めるための取り組みです。

本要覧は、本市における教育行政全般、各教育機関及び学校の諸活動についての概要をまとめたものです。戸田市の教育施策と現状を御理解いただく一助として皆様に御活用いただきますとともに、今後も本市の教育に対し、より一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月1日

戸田市教育委員会  
教育長 戸ヶ崎 勤